① 申請者	山電古	2 417	地域型 / シリアル型				
1 中間日	山安川		A	В	С	D	E

③ タイトル

日が沈む聖地出雲 ~神が創り出した地の夕日を巡る~

### ④ ストーリーの概要(200字程度)

島根半島西端の海岸線は、出雲神話の舞台となった「稲佐の浜」と「日御碕」の名で親しまれ、そこから見る夕日は絶景です。しかしこの海岸線に、夕日にちなんだお社である「天日隅宮」(出雲大社)と「日流宮」(日御碕神社)が祀られていることはあまり知られていません。

古来、大和の北西にある出雲は、日が沈む聖地として認識されていました。とりわけ、出雲の人々は夕日を神聖視して、畏敬の念を抱いていたと考えられます。

海に沈むこの地の美しい夕日は、日が沈む聖地出雲の祈りの歴史を語り継いでいます。

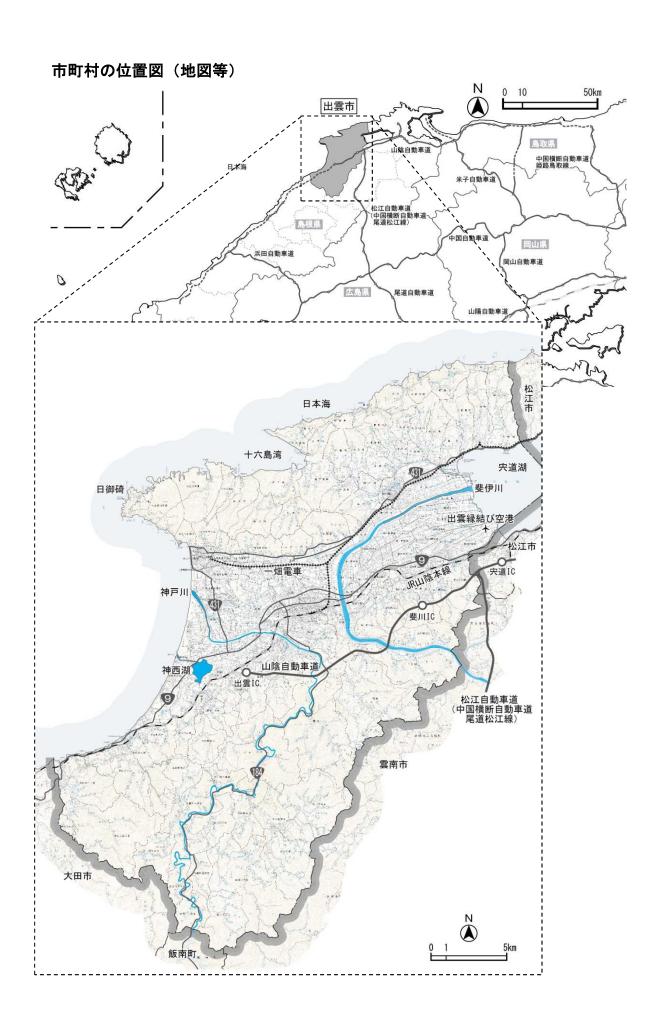




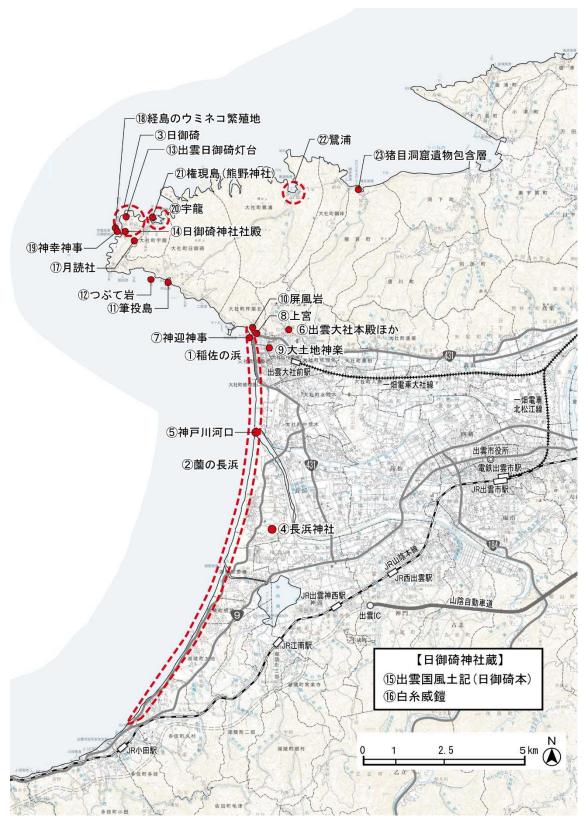


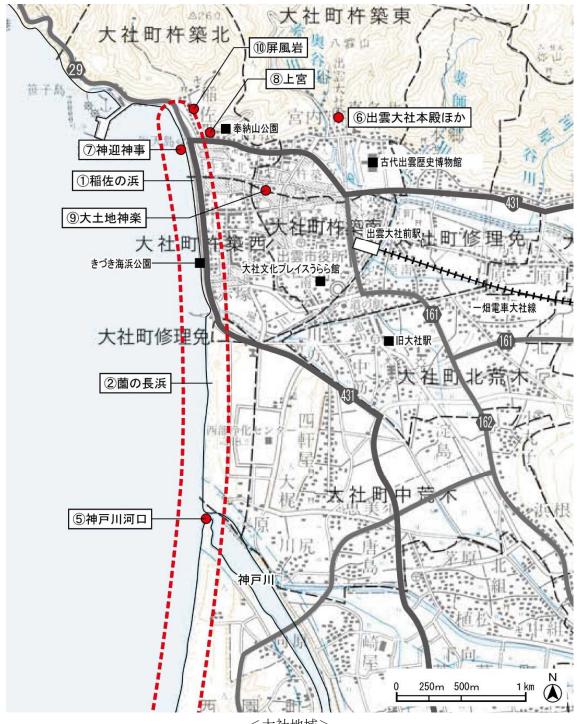
日御碕神社の日沉宮

⑤ 担当者連絡先					
担当者氏名	出雲市 市民文化部 文化財課 文化財保護係 係長 三原一将				
電話	0853-21-6893	FAX	0853-21-6617		
E-mail	mihara-kazuyuki@city.izumo.shimane.jp				
住所	〒693-0011 島根県出雲市大津町 2760 出雲弥生の森博物館内 出雲市役所 文化財課				



## 構成文化財の位置図(地図等)





<大社地域>



<長浜地域>



<鷺浦・猪目地域>

#### ストーリー

#### 神が創り出した海岸線

『出雲国風土記』の「国引き神話」では、出雲平野の北にそびえる山塊と西を縁取る砂浜は、巨大な神ヤツカミズオミヅヌが、海の彼方から引き寄せた「国(土地)」と使った「綱」とされています。また、砂浜と山塊の境に位置する浜は、オオクニヌシが高天原の使者タケミカヅチと会見して、国を譲り渡すことを承諾した『古事記』の「国譲り神話」の舞台として知られています。

西方の海に弓なりに開くこの海岸線は、滑らかな砂浜から岩肌がむき出しの荒磯へとダイナミックに変化し、まさに神業によると例えられるにふさわしい景観です。

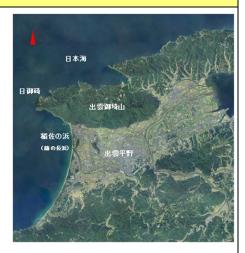
奈良時代に「伊那佐之が張」や「出雲御휵山」と記されたこの海岸線は、今ではそれぞれ「稲佐の浜」や「日御碕」の名で親しまれており、いずれも日本海に沈む夕日の絶景エリアとして人々に愛されています。

しかし、出雲の人々がいにしえからこの地で日の入りにちなんだお社である「天日隅宮」と「日流宮」を祀り、夕日に畏敬の念を抱いていたことはあまり知られていません。

### 稲佐の浜の夕日と「天日隅宮」

夕暮れ時の稲佐の浜に立つと、「紅」に染まる空が渚にたたずむ 発天島のシルエットを際立たせる幻想的な光景が広がります。また、弁天島より南では見渡す限りの夕焼け空と、海に溶け込む。 色の光が織りなす大パノラマを体感できます。

稲佐の浜(蘭の長浜)は南北約10kmにわたる砂浜で、かつては西へ開いた出雲の海の玄関口として多くの船や人を迎えました。「国譲り神話」の舞台となったのは稲佐の浜の北端で、この弁天島がある辺りと言い伝えられています。ここでオオクニヌシは自身の霊が住むための宮を築くことを条件に国譲りを承諾しました。この宮が浜から東へ1kmほど離れた出雲大社であり、



島根半島西部



稲佐の浜 (薗の長浜)



夕焼け空と弁天島

『日本書紀』では「天日隅宮」と記されています。その名称から、この地がかつて日が沈む聖地として 認識されていたことがうかがえます。

今でも旧暦 10 月 10 日には日没を待って、出雲大社の神職が全国から参集される八音方の神々をお迎えする「神迎神事」がこの稲佐の浜で執り行われています。太古から変わらない日の入りへの思いは、今日まで連綿と受け継がれています。

#### 日御碕の夕日と「日沉宮」

日御碕の海岸線は、奇岩や絶壁が複雑に入り組む荒々しい景観を呈しており、稲佐の浜とはまた異なった魅力のある夕日や景色を見ることができます。平安時代初期、画聖の巨勢金岡は、この海岸線にある島の一つを絵にしようとしましたが、朝夕刻々と変化する美しさをついに描ききれず絵筆を投げたそ

うです。「筆投島」の名称の由来として伝わるこのエピソードは、 そのことを端的に示しています。

日御碕の名が示すとおり、古くから「日」に縁がある岬として 広く知られていたこの地には、明治時代に出雲日御碕灯台が建設 され、白亜の灯台が立つ今日の美しい風景が整いました。日御碕 を訪れると、灯台越しに海に沈む夕日が、次々に打ち寄せる波頭 や海に浮かぶ岩礁を赤く染める、絵画のような景色を観賞するこ とができます。

日御碕の西側にはたくさんの経巻が固まってできたという伝承が残る経営があります。春先から夏にかけては、島の上を飛び交うウミネコのシルエットが夕日の美しさに変化を加えます。また、毎年8月7日には、日御碕神社の神職によって夕日を背景にした「神幸神事」が執り行われます。

日御碕神社にはスサノオを祀る神の営とアマテラスを祭神とする日沉宮があります。日の出の太陽に象徴されるアマテラスは、ここ出雲では日の入りの夕日に象徴され、江戸時代には、日 沉宮は日が沈む聖地の宮と称されるようになります。

### 日が沈む聖地出雲

古来、政権の中心であった大和から見ると、太陽は北西の出雲に沈みます。このことから出雲は「日が沈む海の彼方の異界につながる地」として認識されたと考えられます。中央で編まれた『古事記』や『日本書紀』で、出雲が「黄泉園」と「地上世界」をつなぐ地として描かれているのは、古代の人々が出雲を「日が沈む地」とイメージしていたことに端を発するのかもしれません。

今日も出雲では夕暮れ時の挨拶として「ばんじまして」という 方言が使われています。他の地域ではあまり耳にしない「こんに ちは」と「こんばんは」の間を結ぶ挨拶で、夕刻に格別な思いを 抱く出雲の人々の心情が垣間見えます。

穏やかな表情や荒々しい姿を見せる海岸線。それを舞台に圧倒的な存在感を示す夕日。両者が織りなす美しい夕景は神により創り出されたとこの地に生きた人々は感じてきたことでしょう。

出雲の海岸線に立って海に沈む美しい夕日に祈り、出雲神話に ちなんだ神社や登場地を巡ると、日が沈む聖地出雲の祈りの歴史 を体感することができます。



日御碕



出雲日御碕灯台と夕日



経島の夕日



日御碕神社の日沉宮

# ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所 在地 (※4)
1)	稲佐の浜	未指定	『記紀』に描かれた国譲り神話の舞台。13.5km に及ぶ砂浜で出雲大社からも近い(西方1.2km)弁天島がある浜は夕日を見に訪れる観光客も多い。本ストーリーの中心的な構成文化財。	
2	その ながはま 菌の長浜	未指定	『出雲国風土記』に描かれた国引き神話の舞台。ヤツカミズオミヅヌが国を引いた綱が薗の長浜になったという。 稲佐の浜と同じ浜を示し、夕日の絶景エリアとして親しまれている。	
3	DOBACE TO THE PART OF THE PAR	大山隠岐 国立公園	日本海に突き出た島根半島の北西端に位置する夕日が美しい岬。古来、出雲は大和から見て北西の日が沈む地とされたが、日御碕は出雲の中でも最も北西端に位置する。本ストーリーの中心的な構成文化財。	
4	<sub>ながはま</sub> 長浜神社	未指定	国引き神話で国(土地)を日本海から 綱で手繰り寄せ島根半島を造ったと される神ヤツカミズオミヅヌを祀る。 薗の長浜の中ほどに位置する。	
(5)	かんどがお神戸川河口	未指定	薗の長浜で河口を日本海に開く。弥生時代以降、他地域の船を内海の「神門水海」に迎え入れる海の玄関口としての役割を担った。	
6	いずもおやしろ 出雲大社本殿ほか	国宝・国重文 建造物	国譲り神話でオオクニヌシが国を譲るのとひきかえに建立を求めた「天日隅宮」(日が沈む聖地に建てられた宮)。本殿内部では、神座が西向き(稲佐の浜の方角)に設けられている。境内には全国の神々を迎えた際の宿舎となる十九社などもある。	
7	神迎神事	未指定	旧暦 10 月 10 日の夕刻に、稲佐の浜で 執り行われる出雲大社の神事。この神 事により八百万の神々が全国から出 雲に参集し「神議り(かむばかり)」を おこなうとされる。神々が集まる旧暦 10 月を出雲では「神在月」と呼ぶ。	
8	<sup>かみのみや</sup> 上 宮	県指定 建造物	出雲大社の摂社。旧暦 10 月に全国から集まった神々がここで「神議り」といわれる縁結びの会議をされるという社。旧暦 10 月 11 日から7日間はこの社で神在祭が行われる。	
9	大土地神楽	国指定 無形民俗文化財	大土地荒神社の氏子により300年以上伝承されてきた出雲神楽。神社の例祭では夕刻から夜を徹して舞われるほか近年では稲佐の浜での「夕刻篝火舞」で舞を披露している。	

10	びょうぶいわ 屏風岩	未指定	稲佐の浜から50mほど東に入った山 手にある岩。この岩陰でオオクニヌ シが「国譲り」の話し合いをしたと いう伝承が残る。
(1)	かでなげじま 筆投島	未指定	平安初期、画聖といわれていた巨勢 金岡(こせのかなおか)が写生しようと したが朝夕刻々と美しさが変化す る姿をついに描ききれず絵筆を投 げたという伝承が残る。
12	つぶて岩	未指定	国譲りの際にタケミカヅチとタケミ ナカタが力比べのために稲佐の浜か ら岩を投げあったが、力は互角で何回 も同じところに落ち積み重なった岩 であるという伝承が残る。
(3)	いずもひのみさきとうだい 出雲日御碕灯台	国登録 有形文化財	日御碕のシンボルとなる灯台。この地 が海上交通の要衝であることを象徴 する建造物で、そのシルエットが夕日 の美しさを引き立てている。「世界の 歴史的灯台百選」の一つ。
<b>(4)</b>	ひのみさきじんじゃしゃでん 日御碕神社社殿	国重文 建造物	スサノオを祀る神の宮(上の宮)、アマテラスを祀る日沉宮(下の宮)の二社がある。日沉宮は、太陽神アマテラスと日没の夕日を結びつける出雲ならではのユニークな観点といえる。
15	いずものくに か と ま 出雲国風土記 いのみききほん (日御碕本)	県指定 有形文化財	733年に完成した『出雲国風土記』の写本。ほぼ完全な状態の写本が残るのは『出雲国風土記』のみである。
<b>16</b>	しろいとおとしよろい 白糸威鎧	国宝 工芸品	日御碕神社の所蔵で鎌倉時代末か ら室町時代初期のものとされる。ア マテラスを祀る日御碕神社の隆盛 を示す甲冑の優作。
17)	っきょみしゃ 月 読社	未指定	日御碕神社南東の山中にひっそりと 佇む神社。日御碕神社の祭神アマテラ ス・スサノオの兄弟神であるツクョミ を祀る。この三貴子を近接して祀る事 例は多くない。
18	<sup>ふみしま</sup> 経島のウミネコ繁殖地	国指定 天然記念物	ウミネコの繁殖地として有名な経島 の名は、流紋岩の柱状節理が経巻を積 み重ねたように見えることから付け られた。かつて日御碕神社の日沉宮が あり、現在でも夕刻に行われる神幸神 事の舞台となっている。
19	神幸神事	未指定	旧暦7月7日(現在は8月7日)の夕 刻、日御碕神社の神職が経島に渡り執 り行う神事。季節柄、夕日を背景に行 われることが多いため、夕日の祭りと も称されている。
20	宇龍	未指定	日御碕の東に位置する港町。戦国期に は山陰屈指の貿易港として、また江戸 時代には北前船の風待港として栄え た。周辺の海岸線はあまり知られてい ない夕日の絶景エリア。

## (別紙様式3-1)

21)	でんげんじま 権現島 〈**のじんじゃ (熊野神社)	未指定	日御碕神社の末社である熊野神社が祀られる島。海草をくわえたウミネコが日御碕神社の欄干にこれをかけて去ったという故事にならって旧暦1月5日に「和布刈神事(めかりしんじ)」が行われる。
22)	<b>鷲</b> 油	未指定	宇龍と並ぶ北前船の港。 毎年7月31日の夕刻には豊漁と海上 安全を祈願する「権現祭り」が行われ、 大漁旗を翻した漁船が連なって港に 浮かぶ柏島(かしわじま)を一周する。 夕日を背景にした船影が美しい。
23)	いのかどうくこいがっぽうがんそう 猪目洞窟遺物包含層	国指定 史跡	弥生時代から古墳時代の人骨が 20 体 以上見つかり、『出雲国風土記』に記 される「黄泉の坂、黄泉の穴」に当た るのではないかと注目されている。

# 構成文化財の写真一覧

① 稲佐の浜



②薗の長浜



③日御碕



④長浜神社



⑤神戸川河口



⑥出雲大社本殿ほか



⑦神迎神事



⑧上宮



## ⑨大土地神楽



⑩屏風岩



⑪筆投島



⑩つぶて岩



13出雲日御碕灯台



⑭日御碕神社社殿



⑤出雲国風土記 (日御碕本)



16白糸威鎧



## ⑪月読社



18経島のウミネコ繁殖地



⑲神幸神事 (撮影:武智正信 氏)



②字龍·②権現島(熊野神社)



22鷺浦



②猪目洞窟遺物包含層

